

SALAD BOWL

リニューアル号
Vol. 10

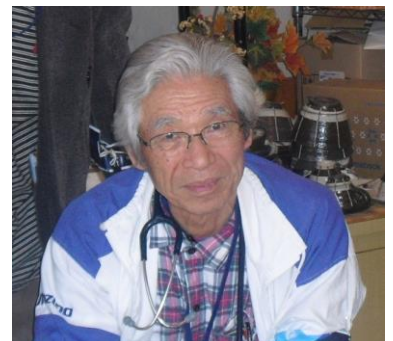
~Fresh material sent direct from the real medical scene~

東葛病院・代々木病院から 医師を目指すあなたへ

医師を目指すみなさん、こんにちは！代々木病院の医学生室の服部です(^o^)/ 今回のサラダボウルは、代々木病院精神科中澤正夫（なかざわまさお）医師に、毎月行っている福島県の被災地支援の現状を報告していただきました。

「相馬は、いま・・・」

2011年の福島第一原発の悲惨な事故は、多くの避難者をつくり出した。原発のあった双葉郡と、相馬郡の一部は国の命令で町ぐるみ、何も持たず、中通りや会津へ避難していった。避難待機地区や中通りの人々もまた自分の判断で、知り合いを頼って全国各地へ避難していった。あれから6年半が経ち、双葉町、大熊町など、今なお線量の高いところ以外は、帰還が始まっているが、戻った人は1割ほどである。メルトダウンした、1-3号機の廃炉作業は始まっておらず、いつまた爆発するかわからない。農漁業・林業などの第一次産業を担っていた人々の仕事が成り立たないからである。



中澤正夫医師
代々木病院精神科



○精神科医としての支援

私は、東日本大震災直後から支援に入り、今も毎月、細々ながら支援を続けている。この地区の精神病院は強制避難地区にあり、入院患者ごと避難し、メンタルクリニックも避難し、精神科無医村地帯が出来てしまったからである。多くの外来患者が、新地町、相馬市、南相馬市に取り残されていたのである。避難所や仮設住宅、借り上げ住宅には、こころのケアを要する人がひしめいていた。精神病患者だけではなく、津波被害由来の悲哀反応、PTSD、救援側（消防団や自治体職員など）のストレス対策なども急務であった。

○アルコール依存症を抱えた人々

混乱した支援が落ち着いてきて、まず、目についたのは、仮設住宅や借り上げ住宅でのアルコール依存症の多発である。はじめに目についたのは、元々、アルコール依存症を抱えた人であった。身体症状を持ったトラブルメーカーである。次に分かったのは、仮設住宅から出る大量の酒瓶や空き缶である。何もやることが無く、先の見通しもないため、皆が酒に走り、予備軍がいっぱいなのである。3年ほど経つとまた、別の酒飲みが顕れてきた。朝から、ちびりちびり、ビールを飲み続け食事もしないで、やせ細っていくのである。それでも、私が訪問するとニコニコと話しをしてくれる。こういう例は、これまで、精神医学が蓄積してきた、断酒会や抗酒剤などでは、全く歯が立たない。こういう例は、帰村しても、家も、仕事がないとわかっているのも未来を諦めてしまっているのである。慢性自殺を選んでいるのである。次の日訪問してみると、死んでいる・・となる。人が健康を保つためには、病気にならないだけでなく、未来や夢を持つことがいかに大切かを示している。

○「津波は、過去を奪ったが、原発は未来を奪った」

チェルノブイリでは、フラッシュバックではなく、『フラッシュフォワード』という表現が使われている。フラッシュバックとは、つらい体験をした人が、何かをきっかけに、その体験がぶり返してきて苦しめることを言う。それは、何年経っても消えない。広島・長崎の被爆者は70年経った今も、原爆投下時の惨状が蘇る。チェルノブイリでは、原子炉破裂の惨状も甦るが、被害者や救援者が、その後数十年の間に、死に絶えていった・・という事実の方を想起する・・という意味である。それは、広島・長崎でも同じで、次々と白血病や癌で死んでゆくのを自分に重ね、怯えて生きているのである。福島でも同じことが起っている。この先、帰村できても、土地も耕せず、厳しい、寂しい未来しか待っていないことを見切っているのである。「津波は、過去を奪ったが、原発は未来を奪った」のである。

私は、福島の今の最大の直面している被害は、放射能被害をめぐって、村も、近隣も、家族も、兄弟も、時には夫婦さえも、（こころが）バラバラにされてしまったことだと思う。避難したかどうか、どこへ、どんな形で避難したか、線量に対する考え方、皆ばらばらなのである。それが6年も続けば、帰村が可能となっても、震災前の仲よし近隣に戻るのは大変である。仕事の関係、子どもの学校の為、帰りたくても帰れない人が多い。帰っても生業が立たない人は帰ることもできない。だから、いま、私たちがやっているのは、医療援助ではなく、新しい近隣形成、村づくり支援である。見知ったもの同士が、これまでと違った新しい近隣関係を作り上げる手助けである。それなくしては復旧も復興もないのである。

私の支援は、どう見られているのだろうか？感謝はされている。しかし、時々言われる。

「先生が来てくれるのは嬉しいが、東京ではやることはないんですか？」

東京で、反原発の運動や、東電や国に復興予算を付けさせる運動を首都圏の人が率先してやるべき・・ともとれる。それ以上に、「福島第一原発が作り出していた電気は、福島では使われず全て首都圏で使っていたのですよ、それなのに、東京の人たちは、日々お気楽に過ごしている、時々、有名人などが励ましに来て、人気取りに使っている」ともとれるし、もうすっかり大震災の事を忘れているが、スマホの充電は忘れない若者に対する抗議の声も含まれているようにも思う。